

韓国プッカン江における環境政策の検討

環境計画研究室 宮尾徹

研究背景

韓国の年平均降水量は世界平均の1.3倍の1,283mm

- ・人口密度の多さ
- ・降水量の偏り
- ・帯水層の発達が貧弱

水の利用に多くの困難

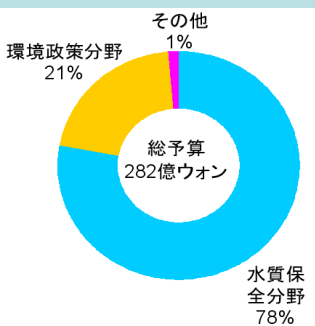


ソウルはハン江の流域にあり、上流には**プッカン江**が位置している。また、プッカン江の管理はカンウォン道が行っている。ソウルの水源はハン江であり、その上流のプッカン江は**首都圏の水資源として重要**である。

目的

水資源として重要視されるプッカン江の環境問題に対して、国やカンウォン道がどのような政策を行ってきたかを明らかにする。また、日本国内の環境問題や政策と比較検討する。

カンウォン道の環境政策



カンウォン道の2008年環境政策予算の内、水質保全分野がほとんどを占める。

- 水質保全分野の事業内容
- ・濁水低減対策
 - ・下水処理 など

濁水低減問題



プッカン江の上流ソヤン江では毎年濁水が発生・長期化。利水などに影響。原因は上流の高冷地畑からの土砂。

濁水

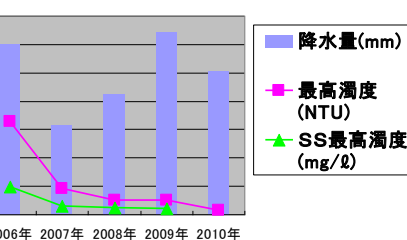


カンウォン道は河川の最高濁度と降水量の関係から改善傾向にあると評価

対策



正確な判断をするにはより詳細なデータが必要と言える



そこで...

琵琶湖の水質常時監視システム

琵琶湖の水質を一時間ごとに水質を観測

降水量との関係から濁水の発生地点・量がより詳細に分かった

プッカン江でも水質常時監視を行うべき

下水処理

韓国の河川では下水処理場への高度処理導入100%を目指している。河川延長が長く、上流で排水された水が下流で再び取水されるため

淀川水系も上流から下流まで都市が続くことから同じことが言える。滋賀と京都、大阪の高度処理普及率はそれぞれ83.0%、41.9%、48.7%である。人口密度の高さと大阪湾が閉鎖性水域であることなどから、韓国のような**更なる改善が求められる**。

まとめ

- ・プッカン江における水質常時監視が必要
- ・淀川水系の下水処理の更なる改善

カンウォン道全体の政策について...

韓国の地方の政策は国費に依存しているものが多く、道が自由に予算を使えない。そのため実施途中で予算が足りなくなり、事業に支障が出ることもある。また、事業効果を十分に見極めずに事業を進めていることが多い。今後は事業の効果を見極め、適切な政策を重点的に行い、**予算の無駄を最小限にとどめていく必要がある**。

韓国プツカン江における 水環境政策の検討

環境計画研究室
宮尾徹
(院進学)